

電波時計(掛時計) 取扱説明書

取扱説明書番号 M145-CXXX

～ 製品の特長 ～

- 標準電波を受信して時刻を自動修正
- 日付または時刻をデジタル表示します
- 暗くなると秒針と受信表示ランプが停止します

お買い上げいただきありがとうございます。

お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

発売元 リズム時計工業株式会社

〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12
http://www.rhythm.co.jp

アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。次の記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

●修理部品の保有について

この時計の修理用性能部品（電子回路など）は製造打ち切り後、7年間で基準に保有しています。ただし、外装部品（ケース類）の修理には、類似の代替品を使用したり、現品交換させていただくことがあります。

●修理可能期間について

無料保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有料修理が可能です。ただし、修理には販売店と修理工場の往復運賃・諸掛り費用も加わり、商品により修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

●転居または贈答品の場合

転居または遠隔地からの贈答品で、お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。（保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。）

アフターサービスなどについてご不明なことがありましたらお客様相談室にお問い合わせください。お問い合わせに際しては、時計に裏面に表示してある製品番号(型番)をお伝えください。例. 4FY○○○

お問い合わせ先 お客様相談室 0120-557-005
(フリーダイヤル)

受付時間 9:00～17:00（土日、祝日および当社休日を除く）

CITIZEN はシチズンホールディングス株式会社の登録商標です。

(Y0805)

ご使用上の注意 (必ずお読みください)

ここに示した注意事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。必ず守ってください。

■表示の説明について

表示内容を無視して、誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、下記の表示で区分して説明しています。

警告 この表示は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

注意 この表示は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、下記の表示で区分して説明しています。（表示の一例です。）

禁止 この表示は、してはいけない「禁止」内容です。

強制 この表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

■誤飲による事故防止について

警告 小さな部品や電池は、幼児の手の届かぬ所に置かないでください。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

分解禁止 分解したり改造しないでください。故障の原因になります。

注意 時計は精密機器です。落としたりして衝撃を与えないでください。故障や破損の原因になります。

■液晶表示板について

注意 表示部が破損して液晶が手などについた場合は、石鹸でよく洗い流してください。口や目に入ったときは、きれいな水で洗い流し、すぐに医師の治療を受けてください。

■使用場所について

禁止 下記のような場所では使わないでください。機械やケース、電池の品質が低下し、精度不良や時計、電池の寿命が短くなります。

- 温度が+50℃以上になる所。例えば、長時間直射日光のあたる所。暖房器具等の熱風や火気に近い所。
- 温度が-10℃以下になる所。プラスチックの劣化や電池の性能が低下することがあります。
- 浴室など湿度が多いところ。
- ほこりが多く発生するところ。
- テレビ・OA機器・オーディオのそばなど強い磁気が発生する所。磁力の影響で、時計の進みや遅れが生じたり、止まることがあります。
- 車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- 温泉場など、ガスの発生する所。
- 多くの油を使用する所。霧状になった油分がケースや機械部に付着し、汚れや止まりの原因になります。
- プラスチック製の時計の場合、軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、相互に色移りしたり、付着することがあります。

■お手入れについて

- 汚れがひどい時は、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ケースなどのよごれ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。
- 静電気により時計や掛けた壁面が汚れることがあります。定期的に汚れを落としてください。

電波時計について

電波時計とは

電波時計は、正確な時刻およびカレンダー情報をのせた標準電波を受信することにより、自動的に表示時刻を修正し正確な時刻をお知らせする時計です。

標準電波とは

標準電波(JJY)は、日本標準時(JST)をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。

※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波送信所は、福島県の「福島局：おおたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局：はがね山標準電波送信所」の2カ所あります。

標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。

(http://jjy.nict.go.jp)

標準電波の送信停止について

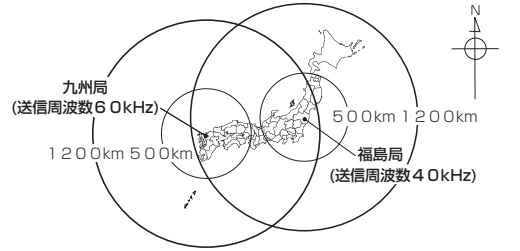
送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

海外でのご使用について

この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外で使用した場合、まれに日本の標準電波を受信し、日本の標準時を表示したり、ノイズにより誤った時刻を表示することがあります。海外でのご使用はお勧めできません。

電波の受信範囲について

送信所から約1200km離れた場所でも受信可能です。ただし、受信範囲であっても電波障害(太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯(昼/夜)あるいは地形や建物の影響など)により、受信できないことがあります。

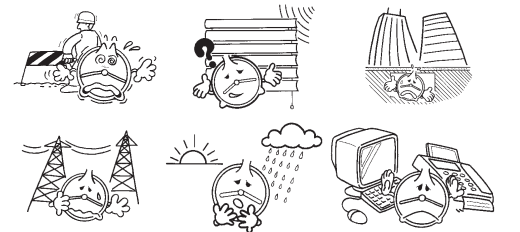


この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。

電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所。
- 金属製の雨戸やブラインドの近くビルの地下など
- 高圧線、テレビ塔、電車の架橋近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く、スチール机等の金属製家具の上や近く



電池のご注意 (電池の正しい使い方)

電池ご使用上のポイント

正しく使って事故をなくしましょう。

- プラス(+)、マイナス(-)を間違えない。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 種類の異なる電池を混ぜない。
- 電池を新しくするときは、全部まとめて取り替える。
- 時計が動いていても定期的に交換する。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- 幼児の手が届かないところに置く。

電池の種類について

- 本製品は電池の特性に合わせて設計されています。指定以外の電池では、製品仕様を満たさない場合や正常に機能しないことがあります。
- アルカリ乾電池とマンガン乾電池は形状的に互換性があり、一般にアルカリ乾電池のほうが長持ちします。
- ③アルカリとマンガン乾電池の混在使用は液もれの原因となりますのでおやめください。
- 一般に充電式乾電池は電圧が低く、時計には不向きです。使用しないでください。
- 一部の高性能電池では、初期電圧が高く時計には不向きなものがあります。(例: Panasonic オキシライド乾電池)

電池の廃棄

- お住まいの自治体の指定にしたがってください。

注意 火に入ると破裂の原因となり危険です。

取り扱いについて

警告 電池からの液もれや発熱、破裂を防止するために、つぎのことをお守りください。

- 電池に傷をつけたり、分解しない。
- 電池をショートさせない。
- 電池を充電しない。
- 時計を使用しないときは電池を取り外す。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。

液もれが起きてしまったとき

電池からもれた液が目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療を受けてください。アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。

もれた液に直接触れないでください。特にアルカリ乾電池には注意してください。ゴム手袋をして電池をはずし、もれた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときはお買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

電池の寿命について

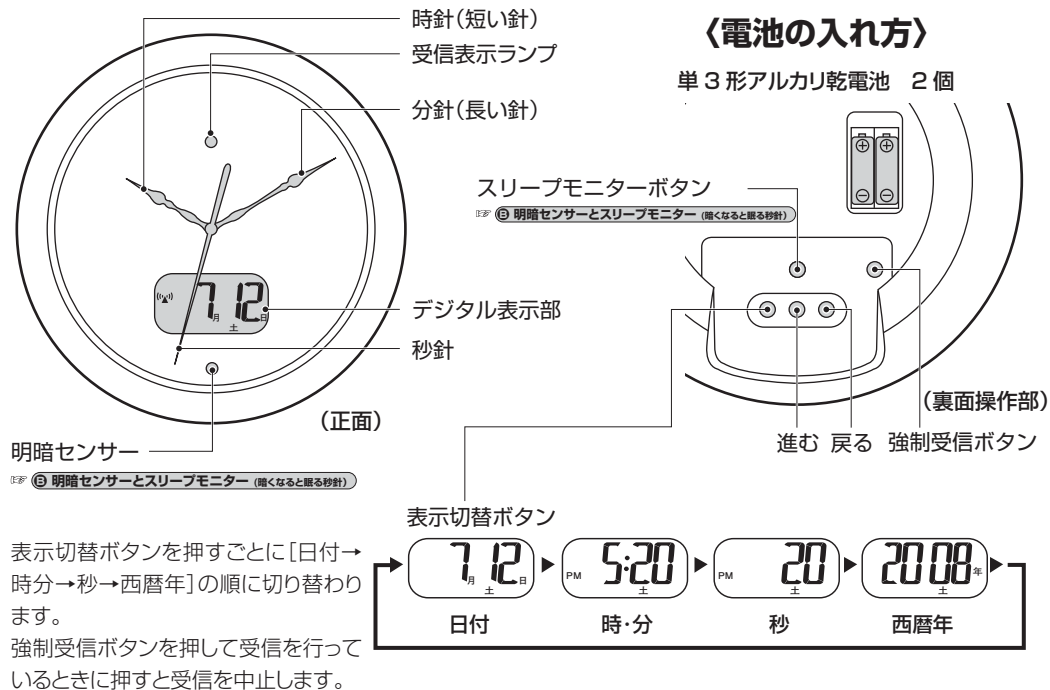
- 付属の電池は、工場を出荷するときに入れていますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。
- 使用環境の温度などにより、製品仕様より電池寿命が短くなる場合があります。
- 買い置きした電池を使用した場合、保管状態や乾電池に示されている「使用推奨期限」により、電池寿命が短くなる場合があります。

■時計の廃棄

- お住まいの自治体の指定にしたがってください。

時計の使い方 電池を入れて時刻を合わせる

図は操作説明用ですので、実際と異なることがあります。



標準電波を利用しないで、手動で時刻を合わせる場合は、**Ⓐ 標準電波を受信できない場合**の「手動での時刻・カレンダーの合わせ方」を参照してください。

◎窓際など電波の受信しやすいところでお使いください。

1 電池を入れる **〈電池の入れ方〉参照**

時計裏面の電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて電池を入れます。
電池を逆にすると、電池の液もれ・発熱・破裂の原因となります。

2 強制受信ボタンを押す **〈標準電波-受信の流れ〉参照**

受信表示ランプおよび電波マーク(☎)が状態を表示しながら受信を開始します。
受信中は針は停止しています。受信には最長で22分程度かかります。
※電池を入れた後は必ず強制受信ボタンを押してください。

3 時計を掛ける

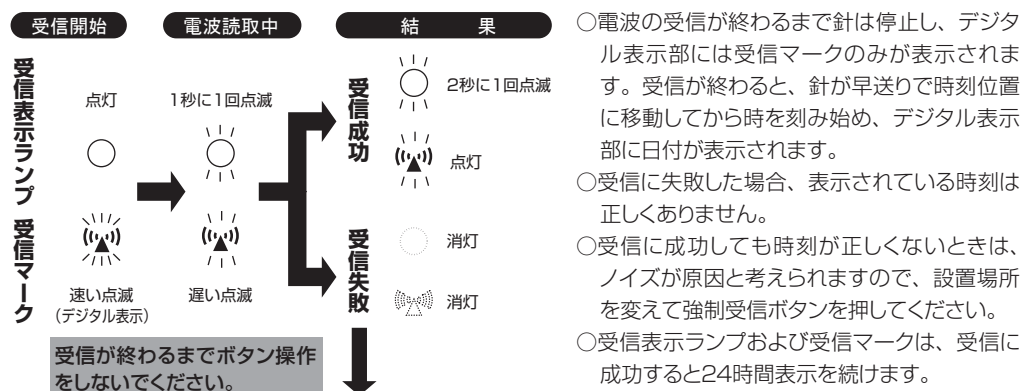
〈時計の掛け方〉に従い、時計を確実に掛けてください。

4 受信結果を確認する **〈標準電波-受信の流れ〉参照**

受信に失敗したときは、**Ⓐ 標準電波を受信できない場合**をお読みください。

標準電波-受信の流れ

強制受信ボタンを押してから最長22分後に受信結果を表示します。



Ⓐ 標準電波を受信できない場合

- 朝までそのまましておく
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくとう受信できる可能性が高くなります。
- 場所を変える／受信をやり直す
電波の受信しやすい窓ぎわや取扱説明書の日本地図を参考にして、時計の正面または裏面が電波の送信所に、なるべく向くようにして、強制受信ボタンを押して再度受信を行ってください。
- 時刻を合わせ使用する
屋外などで電波の受信に成功させるか、手動で時刻を合わせて使用してください。電波が受信できないときの時間精度は、クオーツ精度になります。

受信できない場合は、下記操作でご使用になれます。

○手動での時刻・カレンダーの合わせ方

表示切替ボタンを1秒以上押しと年表示が点滅して、修正モードになります。表示切替ボタンを押しと、年から月・日→時・分→修正モード解除(曜日は自動的に修正されます)の順に点滅表示していき、進む(繰り上げ)ボタンまたは戻る(繰り下げ)ボタンを押して、表示内容を修正します。

※手動で時刻合わせをした場合の時間精度は平均月差±20秒。

※電池を入れた直後または強制受信ボタンを押した直後、針が早く回っている間は、手動で時計を操作することができません。

操作例 (2008年7月12日午後5:20に合わせる)

- 表示切替 → 進む 戻る
2100 → 2008
- 表示切替 → 進む 戻る
1 1 → 7 12
- 表示切替 → 進む 戻る
0:30 → 5:20
- 表示切替 → 進む 戻る
この時計のカレンダーは2001年1月1日から2100年12月31日まで対応しています。電池を入れ、強制受信ボタンを押したときは、2100年1月1日となります。強制受信ボタンのみを押して、受信に失敗した場合は、押す前の値から継承します。

Ⓑ 明暗センサーとスリープモニター (暗くなると眠る秒針)

明るさを感じる明暗センサーにより、暗くなると秒針を12時位置で停止させ、受信表示ランプの点滅を停止させます。昼間や夜間照明時でも光量が不足するとセンサーが動きます。
スリープモニターは、明暗センサーの機能を確認するためのものです。
秒針が12時位置に近いところでスリープモニターボタンを押し続けると秒針が12時位置で停止します。ボタンを離すと秒針が現在位置に早送り移動します。

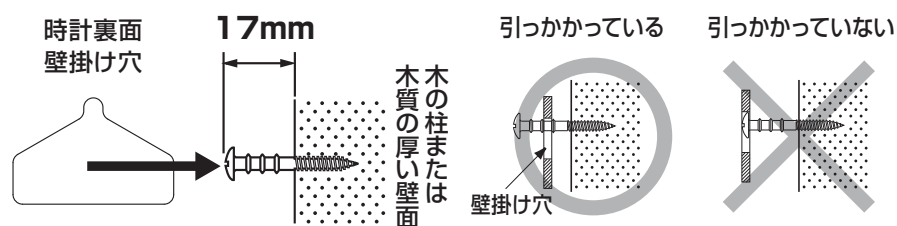
時計の掛け方

掛け方が不適切な場合、時計が落下する危険があります。

- 垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れる恐れがあります。
- 掛けたときは、上下、左右に軽く動かして、壁掛け穴に掛け具(木ねじ)がしっかり掛かっていることを確認してください。
- 市販の掛け具を使用するときは、壁掛け穴にしっかり掛かるものを選んでください。
- ドアを開閉するときの振動が伝わらないところに設置してください。

木の柱または木質の厚い壁面の場合

- 付属の木ねじが使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。
- 木ねじは下図の通り、壁面にしっかりねじ込んで固定してください。



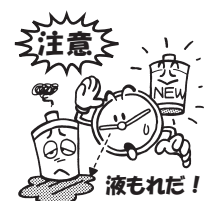
その他の壁面の場合

- 石膏ボード、コンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。その際、両面テープ式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。

◆ 電池の交換 早めに交換して液もれを防ぎましょう

電池からの液もれが発生すると、時計の修理や壁面などの修繕に費用が発生することがあります。電池からの液もれや発熱、破裂を防止するためにつぎのこと **注意** をお守りください。

- 時計が停止したときは、速やかに指定の電池に交換するか、電池を取り出す。
- 時計が動いていても1年に1回、定期的な交換する。
- 古い電池と新しい電池、マンガン乾電池とアルカリ乾電池を混在して使用しない。
- 電池の⊕⊖を逆に入れない。



おもな製品仕様

使用温度範囲	-10~50℃ (液晶表示可読範囲0~40℃)	標準電波	受信局自動選択
時間精度	表示精度 標準電波受信直後 秒針 ±1秒 時分針 目盛りに対して ±3度 デジタル表示 ±1秒 標準電波を受信しない場合 平均月差 ±20秒	受信局自動選択	強制受信: 強制受信ボタンにより受信を開始 受信結果の表示: 受信表示ランプ、受信マーク
使用電池	単3形アルカリ乾電池 (JIS LR6) 2個	自動受信	▶受信成功から72時間以内の場合...1~3回/日 ▶連続72時間以上受信に失敗または初めから受信に失敗している場合...12回/日
電池寿命	約1年 標準電波の受信に成功し、明暗センサーにより1日8時間秒針が12時位置に停止しているとき	明暗センサー	暗くなると秒針の停止、受信表示ランプ消灯 スリープモニター: 明暗センサーの機能確認
		デジタル表示切替	月日→時刻→秒→西暦年 カレンダーは2100年まで対応

※液晶はその特性上、0℃以下になると表示反応が遅くなったり、表示が薄くなる場合があります。40℃以上になると表示が濃くなったり、ムラに見えることがあります。
※液晶表示板は5年を過ぎると、コントラストが低下して数字が読みにくくなる場合があります。
※製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。